

原著<論文>

「保育内容指導法 言葉」における学生の学び
—実習での経験とのつながりに着目して—

山本 聡子*1

問題と目的

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、乳幼児期の発達をとらえる視点として5領域が設定され、それぞれの育ちに関する保育のねらいと内容が示されている。しかし、乳幼児期の発達は総合的なものであり、それぞれの領域が相互に関連しあって発達していくという見方を、保育者は常に持っていないといけない。その中でも言葉の力は乳幼児期に大きく伸びるものであり、子どもの社会生活や人とのかかわり、自己の確立、思考や問題解決力の基礎となること、さらに、周りの大人との情緒的結びつきを基盤とした豊かなかかわりを中心とした環境が子どもの発達に大きく関わることから、保育者を志す学生が子どもの言葉の発達の道筋について理解し、さらにその発達を促す保育の方法について学ぶことは、保育者養成課程において必要不可欠だと言える。これらの理解を踏まえ、保育者養成課程における「保育内容指導法 言葉」の学びが、ただ単に授業内での理解にとどまらず、実習や他の科目で得られた学びを通してどのように深まっていったか、どのような学びを得たかを明らかにすることは、授業内容を精選・改善していくにあたって有用な情報となると考える。

特に本研究では、学びの振り返りのキーワードとして、絵本の読み聞かせについての授業での学び、及び実習での経験について尋ね振り返ってもらうこととする。絵本の読み聞かせは時間的にも比較的短時間の活動であること、子どもは受動的な立場であること、絵本を読み上げることが出来れば技術的には未熟でも活動としては成立することなどから、学生としても実習の初期で比較的取り組みやすい活動であり、保育所実習や教育実習でしばしば部分実習として実習生に課せられる課題である。また、幼稚園教育要領の領域言葉のねらいとして「(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。」、内容として「(9) 絵本や物語などに親しみ、

*1 名古屋柳城短期大学

興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。」、内容の取扱いとして「(3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。」と掲げられているように、絵本を通して仲間と楽しみを共有したり、イメージを広げたりして楽しむことは、子どもが言葉を身につけていく過程において重要なものであり、そのための保育内容の一つとして、保育の中に複数の子どもにむけた絵本の読み聞かせが取り入れられていると考えられる。実習生にとっては、対象とする子どもたちに合った絵本選び、活動の導入、絵本の読み方、子どもとの応答、活動の閉じ方など、絵本の読み聞かせという一連の活動の中に、さまざまな課題がある。また一つの保育の活動としてねらいを設定し、指導案を立てる必要もある。それらに対応する力をつけるために「保育内容指導法 言葉」の授業では、絵本の選び方、手遊び等を用いた導入、読み聞かせの実践（模擬保育）といった、絵本に関わるさまざまな学習内容が取り入れられている（平嶋 2017、本田 2017）。また、「保育内容指導法 言葉」の中にとどまらず、他の科目と連携を行っている実践も報告されている（広渡ら 2012、鳥居ら 2017）。そのようにして「保育内容指導法 言葉」で学習すべき内容の大きな柱となっている絵本の読み聞かせが、実際に実習ではどのように展開されており、どのような部分の学びがさらに必要となっているのか、学生自身はどう自己評価しているかなどを明らかにすることは、授業内容を精選していくために重要なことであろう。

以上より、本研究では、「保育内容指導法 言葉」の授業と実習での、絵本の読み聞かせを中心とした学びについての学生の振り返りを通して、学生の学びの実感の様相を明らかにし、保育者養成課程における「保育内容指導法 言葉」の授業実践の改善の手掛かりを得ることを目的とする。

研究方法

(1) データ収集の方法

本研究では、学生が「保育内容指導法 言葉」の授業やそのほかの授業および実習を通して学んだことをどのように実習での実践に生かしているか、また、どのようなことを学びたいと考えているかの様相をとらえるため、4人の保育学生に対するグループ・インタビューの手法を援用してデータを収集した。

グループ・インタビューとは、「ある属性を共有する少人数(6～12人程度)の初対面の人々が、あらかじめ決められた調査計画のもとに選択され、依頼されて一堂に会し、2時

間程度、くつろいだ雰囲気の対面的状況で、熟練の司会者の集団討議技術により、自由で自発的な発言を行い、調査者がそれらを言語データとして記録・分析する社会調査技法のこと」である(保坂他、2000)。保坂はグループ・インタビューを用いる意義として『『複数の主観』によって議論がなされることによって、ひとりだけの観察者が陥りやすい独善性を排除できる』『主観の集合としての『間主観性』が保証され、データの妥当性・信頼性・客観性が企画設計・収集・分析の各ステップで保障されることにつながる』と述べている。本研究では人数の点やインタビュー協力者同士が初対面でないという点でグループ・インタビューの手法そのままではないが、多様な視点を取り込んだ上で過去の実践を振り返り自己の経験や思いを語りなおすことを促すために、グループ・インタビューの手法を取り入れデータ収集を行った。

今回のインタビューでは、保育科2年前期で履修した筆者担当の演習「保育内容 言葉」における学びを踏まえ、特に読み聞かせに関する指導と実習での読み聞かせ等の実践を振り返り、「読み聞かせに関する事前の授業での指導内容をどのように受け止めたか」「実習で実際に読み聞かせを行った経験、その際に保育士に受けた指導」「実習を通して自分で感じた学び」「読み聞かせに関して、短大でのほかの授業における学び」等について、またそのほかにも振り返って思いついたことについて自由に話すようにと伝えた。学生たちは、1年次11月に教育実習Ⅰ、2月に保育実習Ⅰに赴き、「保育内容 言葉」の第7・8回目の間に3回目の実習となる教育実習Ⅱを経験している。

インタビュー協力者は、A短期大学2年生4名である。2018年2月9日に約79分間のグループ・インタビューを行った。調査の開始前に研究目的及び倫理的配慮について書面と口頭で説明を行い、協力の同意を得た。インタビュー内容はインタビュー協力者の承諾を得て、ICレコーダーを用いてすべて録音した。そこで得られた総録音時間約79分の音声データを文字データとして書き起こしたのちに、文脈を考慮しながらセグメント化した。総数543セグメントの内、雑談や今回のリサーチクエスチョンに対応しない部分は分析対象から除外した。結果、102セグメントをSCATによる分析対象とした。

(2)分析の方法

本研究では、データの分析・理論生成の方法としてSCATを採用した。SCAT(Steps for Coding and Theorization)は、大谷(2007、2011)が開発した質的研究の言語データ分析のための手法である。その手順は、「マトリクスの中にセグメント化したデータを記述し、そのそれぞれに、<1>データの中の着目すべき語句、<2>それを言い換えるためのデータ

外の語句、<3>それを説明するための語句、<4>そこから浮き上がるテーマ、構成概念の順にコードを考えて付していく 4 ステップのコーディングと、<4>のテーマ、構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する手続き」からなりたっている。この分析手法は、比較的小規模の質的データの分析にも有効であるという特徴を持つ。本研究で対象とするデータは、時間にして約 79 分のグループ・インタビューを文字化したものであり、比較的小規模なデータであるといえるが、そこからでも理論を導き出すことができ、その過程も可視化することができることから、SCAT が適していると判断し、分析手法として採用した。

結果と考察

(1)インタビューデータおよび分析結果

グループ・インタビューの会話データの中で、本研究のテーマである「保育内容指導法言葉」の授業を中心とした保育者養成課程での領域言葉に関連する学生の学びの実感の様相について言及されている 102 セグメントを対象として、SCAT の 4 ステップでのコーディングを行ったものが<付表 SCAT 分析表>である。ここから、表 1 のようにストーリーライン、理論記述を作成した。下線部は分析の結果表れた概念名である。

表 1 ストーリーラインと理論記述

ストーリーライン (現時点で言えること)	<実習における学びについて> 今回のインタビュー協力者の学生たちは、指導案を書かず読み聞かせ部分実習をおこなっていることから、 <u>実践重視</u> の考えが現場にあることがうかがわれ、学生たちも願い出て <u>実践の機会を自ら増やす</u> ことも行なっている。実際に読み聞かせを行う中で、保育者から <u>読み方についてのアドバイス</u> を得られることもあるが、 <u>読み方についてのアドバイスなしの場合には自力で学びながら、成長の手応え</u> を持っている。特に初期に <u>絵本選びの難しさ</u> を感じ、「〇歳児向け」など <u>既成の基準を活用</u> しているが、 <u>実践を通しての学び</u> から、絵本についての <u>判断基準の獲得</u> 、 <u>子どもの視点の獲得</u> が図られ、絵本選びに生かされるようになる。 <u>実践を増やすと見て学ぶ機会が減る</u> という難しさはあるが、 <u>保育士の姿からの学び</u> としては、 <u>子どもをよく見ていること</u> や、 <u>子どもの興味と生活を即興的につなげる保育士の技</u> を見て取っている。 <u>絵本の読み聞かせの展開</u> に
-------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ついて、数を数える、行事について伝えるなど、<u>ねらいに沿った展開や園によるやり方の違い、長期的視点に立った展開など、展開の多様性</u>などを学びつつ、中でも読み聞かせ前後の儀式的なやりとりについては、<u>決まっていると楽</u>と感じる一方で<u>決まったやり方への子どもの固定的反応</u>に違和感を持ち、<u>固定化したやり方への疑念</u>を持ったり、時間合わせに絵本を読むなど、<u>現場ならではの現実への気づき</u>も感じたりしている。</p> <p><授業における学びについて></p> <p>授業での学びについては、実習での読み聞かせを経験し、<u>実践を通しての振り返り</u>を経て、<u>引継ぎ方の重要性への気づき、より良いやり方への気づき、読み聞かせに重要なものへの気づき</u>などを得て、<u>メタ視点の獲得、成長の手応え、自己の成長を実感</u>し、<u>授業での学びの有用性も実感</u>している一方で、<u>実践を通じた見方や考え方の広がり</u>から、<u>授業で学んだ理論と授業での学びと実感とのズレ</u>を感じ、<u>授業での学びへの批判的検証</u>もしながら、<u>自分なりのやり方の模索</u>をし、<u>理想とする姿の形成</u>につなげている。<u>授業での学びを実践に生かす意識</u>を持って学んでいるが、2年間の学びを経て、短大での授業内容が<u>手遊びに偏重</u>していることに<u>気づき</u>、<u>授業内容が作る固定観念</u>についてよくないことと感じている。またそこから、<u>絵本以外の言語文化財を学ぶ機会</u>の少なさも感じており、<u>手遊び以外の遊びを教わる</u>ことのできる授業に対しては、<u>手遊び以外の学びの評価</u>しつつ、<u>自分の弱みを意識して自分で補完</u>している。また、実習を経験したことで<u>実習に向けて模擬保育の意義の再確認</u>している。模擬保育では、<u>見てもらう側としてできていないことを指摘</u>してほしい気持ちと、<u>見る側としてできていないことの指摘は難しい</u>という、相反する気持ちがある。<u>自分もできていないからこそ指摘し合うのだ</u>という考えももっている。</p>
<p>理論 記述</p>	<p><実習における学びについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に絵本の読み聞かせに関しては、保育者側にも学生にも実践重視の考えがある。 ・ 実際に読み聞かせを行う中で、保育者から読み方についてのアドバイスを得られることもあるが、読み方についてのアドバイスなしの場合には自力で学びながら、成長の手応えを持っている。特に初期に絵本選びに難しさを感じているが、実践を通しての学びから、絵本についての判断基準の獲

	<p>得、子どもの視点の獲得が図られ、絵本選びに生かされるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士の姿から、子どもをよく見ていることや、子どもの興味と生活を即興的につなげる保育士の技を見て取っている。 ・ 絵本の読み聞かせの展開について、ねらいに沿った展開や園によるやり方の違い、長期的視点に立った展開など、展開の多様性などを学びつつ、中でも読み聞かせ前後の儀式的なやりとりについては、決まっていると楽と感じる一方で決まったやり方への子どもの固定的反応に違和感を持ち、固定化したやり方への疑念を持ったり、時間合わせに絵本を読むなど、現場ならではの現実への気づきも感じたりしている。 ・ 授業での学びについては、実習での読み聞かせを経験し、実践を通しての振り返りを経て、引継ぎ方の重要性への気づき、より良いやり方への気づきなどを得て、授業での学びの有用性も実感している一方で、授業での学びと実感とのズレを感じ批判的検証もしながら、自分なりのやり方の模索をし、理想とする姿の形成につなげている。 <p><授業における学びについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での学びを実践に生かす意識を持って学んでいるが、2年間の学びを経て、短大での授業内容が手遊びに偏重していることに気づき、授業内容が作る固定観念についてよくないことと感じている。手遊び以外の遊びを教わることのできる授業に対しては、手遊び以外の学びの評価しつつ、自分の弱みを意識して自分で補完している。 ・ 実習を経験したことで模擬保育の意義の再確認している。模擬保育では見てもら側としてできていないことを指摘してほしい気持ちと、見る側としてできていないことの指摘は難しいという、相反する気持ちがある。自分もできていないからこそ指摘し合うのだという考えももっている。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 「保育内容指導法 言葉」の授業を中心とした学生の学びの構造

以上の分析から、「保育内容指導法 言葉」の授業を中心とした保育者養成課程での領域言葉に関連する学生の学びを構成する要素を抽出することができた。その全体の構造は以下のように述べられる。

実習においては、綿密に指導案を立ててから読み聞かせに臨み、実践の後振り返るとい

うよりも、空いた時間があったら何度でもできるだけ多く読み聞かせを行った方がよいという、実践重視の傾向がある。保育者のアドバイスの有無によらず、回数を重ねることで学びや成長の手ごたえを得ることができている。特に1年次の実習では絵本選びに対する判断基準を内面化しておらず、本に書かれた「〇歳向け」といった外的な基準に依存して絵本選びを行っている。しかし、実習中の読み聞かせをとして、子どもの反応に接することで、子どもの視点の獲得が図られ、絵本選びに生かされるようになる。

また、自らの実践以外では、保育者が絵本を読み聞かせる姿を観察することにより、子どもをよく見て援助を行っていることや、絵本から喚起された子どもの興味関心をその後の生活の展開に即興的につなげていく巧みさなどに気づいている。

絵本の読み聞かせの展開について、その時々保育のねらいに沿って展開されることや、読み聞かせの前後の決められた手順の有無などの園による違い、行事に向けて教材的に絵本を用いるなど、様々な展開の仕方があることに気づいている。実習生として全てを肯定的に受け止めているのではなく、固定化したやり取りに対しては、楽でいいと感じる一方で、子どもの反応の様子から、そのやり方に疑問を持って居る。また、教育的なねらいを持たず、時間合わせのために絵本を読むなど、現場ならではの現実への気づきもある。

授業での学びについては、実習における読み聞かせの実践の振り返りを通して、読み聞かせ後の担任保育者への引継ぎの重要性など、授業の学びの有用性を実感している。その一方で、授業で学んだことと、実習で保育者に受けるアドバイスや、実践で感じる実感などとのずれも感じており、それに対して批判的な検討を加えつつ、自分なりのやりやすい、より良いやり方を模索している。

授業で学んだことは現場で生かし、試してみようとする姿勢を持っているが、2年間の短大での学びと実習とを振り返り、読み聞かせに関連した導入についての授業内容が主に手遊びで構成されている、手遊び偏重であることに気づき、1年生の実習に対する悩みなどにも接して、手遊びに対する固定観念があることを指摘している。手遊び以外の遊びを教わることのできる授業での学びを取り込みつつ、自らも保育教材を作るなど、自分の弱みを補完するようにしている。

実習を経験して、模擬保育の意義について再認識しており、少人数携帯から全体での携帯の模擬保育など、様々な形態で模擬保育を経験してから実習に臨みたいという考えを持っている。また、見てもらう立場としては励ましの言葉や良かった点についてのコメントだけではなく、自分ができる点を見指摘してほしいという思いもある。その一方

で、見る立場として経験した、他の学生による模擬保育に対してコメントを送る立場となった時には、できていない点について気づいても、自分もできていないかもしれないと考えたと指摘しづらいという気持ちも持っている。自分もできていないからこそ、人の姿を通して気づくことができるというプラスの捉え方もしながら、模擬保育を実践に生きるものにしようとしている。

次に、上記の全体構造を構成する要素について、大きく実習における学びと授業における学びに分けて詳述する。

<実習における学び>

①実践重視

教職課程コアカリキュラム「保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」に、(2)『保育内容の指導方法と保育の構想』到達目標 3)「指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。」という項目が挙げられていることからわかるように、実践を行う前にこれまでの子どもの様子を振り返り、ねらいを設定して子どもの姿を予想しながら指導案を立てる力を保育者養成課程で身につける必要がある。しかしインタビュー協力者の実習園では、絵本の読み聞かせの部分実習では指導案の作成・提出は要求されず、指導案を介した振り返りや反省会、アドバイスをもらう場などもなかったとのことであった。ここから、絵本の読み聞かせについては子どもの前で実際に何度も実践してみることで、自分で身に付けていくという方針を保育者が持っていることがうかがわれる。保育者は機会のあるごとに実習生に絵本の読み聞かせを任せる様子がインタビューで語られており、その経験から学生は成長を実感している一方で、絵本を読む場面をすべて学生が担うことになり、「保育者の絵本の読み聞かせを見て学ぶ」機会がその分減ってしまうという矛盾があるようだ。しかし、その少ない機会からも、絵本読み聞かせという活動の枠だけにとどまらず、絵本で読み聞かせた話から子どもが抱いた興味関心を、その後の手洗いなどの生活面に即興的に繋げていく場面などを観察し、保育の展開の巧みさを見て取っている。これも、保育の現場ならではの学びだと言えるだろう。

学生が特に最初の実習で苦労したと述べる絵本選びについて、学生たちは最初は手掛かりにするものがなく、絵本に付けられた対象年齢表示などを参考にしたり、授業で紹介された本をそのまま取り入れたりしている。鈴木(2016)は授業の中で学生同士で絵本ビブリオバトルを行った結果、学生が絵本選択において言語表現を重視していることを明らかにしている。絵本は、文章と絵がともにその作品世界を形作るものであり、その両者は不

可分であるが、学生は国語科の教材のように文章で語られる内容を子どもに教えることが絵本の役割だと漠然と感じているのかもしれない。いずれも子どもの視点を中心に据えているとは言えない絵本の選び方である。授業においては、幼稚園教育要領のねらいと内容などの学びとともに、子どもの言語の発達における絵本の意義も伝えているのだが、表面的な理解にとどまり、それらの知識が絵本選びに繋がっていかない。しかし、実習中に何度も機会を得て絵本の読み聞かせを行うことを通じて、徐々に子どもの視点を獲得していく。例えば、同じ絵本でも年齢によって面白がる点が違うということなども、実習での読み聞かせの反応から実感していくと言えよう。

②現場ならではの現実への気づき

実習を通してプラスの気づきを得る一方で、学生たちは、絵本が時間つなぎのために使われている場面や、丁寧な導入を経て子どもの気持ちを絵本に引き付けていくのではなく決まりきった「絵本のうた」などを用いて「この歌を歌ったら静かに絵本を見る姿勢を取る」と習慣づけられている子どもの姿を目にして違和感を感じている。これらは、その園ごとの事情や考えによるものでもあるが、その学生なりに授業での学びなどから形作られた「こうあってほしい」という子どもの姿がそれぞれの中にあるからこそ、「何か違う」という感想を持つに至ったのだろう。

<授業における学び>

①授業での学びの有用性の実感

授業の学びの中で「絵本の読み聞かせ」を漠然と捉えている段階では、子どもの生活の長期的・短期的な流れの中での位置づけを実感するのは困難で、子どもの具体的な姿や成長の様子を結び付けてとらえることも難しい。しかし実習を経て、授業内で学ぶ事柄から「あの時のあの子どものあの行動」というように具体的な子どもの姿が浮かぶようになってくると、それぞれの学びが関連性をもって捉えられるようになってくる。そして学んだことの有用性を実感することにつながる。特にインタビューでは、この点について筆者の授業で指導案を書く時に出した「読み聞かせが始まる前と後の活動への保育者とのつなぎについても指導案の中に記入すること」という指示に対して、初めての実習の時はこの授業をまだ受けていなかったのでできていなかったが、2年生の前期の授業で学んで実習に取り入れることができたと言われている。このようにして、授業で学んだことを実習で生かしながら、授業と実習の往還による自身の成長の手ごたえを得られている。

②授業での学びへの批判的検証

授業での学びを生かしながら実習を経験する中で、授業で学ぶ内容に偏りがあることを感じている。絵本の読み聞かせの導入が手遊びに偏りがちで、実習経験の少ない下級生が導入としての手遊びにこだわりすぎていること、自身も1年生の時はそう思っていたことなどが語られている。また、筆者の授業で、授業開始後に毎回短い時間でできるちょっとした遊び（語りと切り紙で展開する短いあてっこ遊び、ことば遊び歌やクイズのアレンジなど）を紹介したり、授業で素話やことば遊び（なぞなぞ、しりとりの変種、つながり言葉、早口言葉など）を行ったことでの学びに触れ、部分実習として子どもの前で何かできる短い時間をもらった時に、絵本以外の選択肢が浮かばなかったという経験から、1年生の段階から絵本以外の言語文化材を学びたいという希望が語られた。以上のような、授業での学びに関する要求や批判的な意見も、実習を経て自分に必要なものや知っておくべきだったと思うことが見えてきたからこそだと考える。その一方で、短大2年間では学ぶ内容に限りがあると理解していることにも言及し、できていない部分や自分の弱みと思った部分は自分で補完しようとしている。

③模擬保育の意義の再確認

学生は実習での学びを経て、授業内での模擬保育の意義について再確認している。相手が実際の子どもではなく学生である点で実習と全く同じというわけにはいかないが、学生同士見合うことで自分のできていない点を指摘しあうことに模擬保育の意義を感じている。また、今回のインタビューでは言及されなかったが、他の学生の模擬保育に対して一緒に見ている教員がどのように評価をするかも、学生にとって学びになるのではないアカ。しかし、知り合い同士のために思った通りのことを言えなかったり、自分もできていないのに指摘しづらいという気持ちも持っていたりするため、その点を改善していくことでより模擬保育が意義深いものになると考えられる。「自分もできていないからこそ指摘しあう」という前向きな姿勢を互いに持つ壱岐氏改革も効果的であろう。常深(2017)は講義、演習形式の授業で理解したはずの知識が定着しづらいケースを取り上げ、それらの知識を「身についた知」(身体化認知)とするための必須活動として保育所実習・教育実習を位置づけることを提唱している。しかし実習では園によっては、行事予定などによって十分な責任実習や振り返りなどが行えない場合もある。その補完として、模擬保育を行い学生の身体化認知を進める可能性も考えられる。

まとめ

以上で得られた知見をまとめていきたい。

学生は授業で学んだ知識や技術をもって実習に臨み、また学校に戻って来て、実習の振り返りを行いつつ授業で学び、という行き来を繰り返しつつ学びを深めていく。今回は特に実習で必要とされることの多い絵本の読み聞かせに関する学びについて学生にインタビューで尋ねた。その分析から考えられる授業の改善のポイントをいかに上げる。

一つ目に、現場では学びづらい可能性のある指導案について、理論面も含めて十分に指導することである。行き当たりばったりではなく、しっかりと予想を立てねらいを持って絵本を保育の場に取り入れていくことは、予想と違った結果になったとしても振り返りを充実したものにし、自己の課題が明確になる。またなにより、実習生といっても子どもにとっては保育者であるから、ただ絵本を読んで楽しければいいというものではなく、意図やねらいを持って保育を行うことの重要性を授業の場で伝えることにつながると考える。

二つ目に、他科目との連携を強化し、「保育内容指導法 言葉」の開講時期を考慮しながら、1年次から多様な実践の在り方を示しながら授業を行うことである。今回のインタビューでは、特に一年次に絵本の導入として手遊び中心で教わることと、言語表現教材として絵本が中心となっていることが、卒業を前にして不満に感じられる、他のことも早めに触れておきたかった、という内容が語られていた。これは、余裕が出てきた2年の終わりだからこそ出た感想ととらえることもできる。

三つ目に、模擬保育の導入とその方法の改善である。学生は模擬保育に、実習に行く前に実際にやってみる、試してみる場としての意義と、他学生の実践を見て自らができていないことに気付く場、他学生に見てもらい指摘してもらおう場としての期待も持っていることが語られている。それらがさらに充実したものとなるように、コメントの匿名性を確保する(例:コメントカードをいったん教員が集め、集約した形で伝える)、良いと思った点と改善が必要だと思った点を必ずどちらも書くような様式のコメント用紙とするなど、今回出た改善点を授業に生かしていきたい。

保育者の専門性を高めることの必要性が叫ばれて久しい。そのためにも、自ら学びたいという姿勢と、学び方を身に着けた学生を育てていくことが養成校に求められていると考える。井上(2010)が『講義で学んだことを実習中に思い返し、実習で得たものを講義で思い出す』この連鎖をうまく学生の自発的な学びに繋げられたら今より確かな実践力として自信が持てるのではないかと述べているように、理論と実践は不可分であり、「なぜこの

ようなことを学ぶのか、必要なことなのか」と授業内容に不満を漏らしていた学生が、実習を終えてから「あの時に授業で聞いたことの大切さがわかった」と言ってくることもあるように、ある程度経験しないと重要性が理解できないということもある。今回のインタビューでも、あの時は分かっていたが、後になって分かったという語りが散見された。今回明らかになった授業の改善点を授業に取り入れるとともに、先輩たちの学びの軌跡を学生に事例として紹介し、今現在の学びの位置づけを示していくことも、学ぶ意欲や学び方への視点を示していくことに繋げていけるのではないだろうか。

<引用文献>

- 平嶋慶子(2017)「保育内容『言葉』の教材と指導法の研究」『鹿児島女子短期大学紀要』62. 109-119
- 広渡純子・讃岐京子 (2012)「保育者養成カリキュラムにおける科目間連携 (1) — 「保育内容言葉」と「保育表現技術」の連携」『聖和論集』40, 69-78
- 本田真大(2017)「幼児への読み聞かせを行う保育内容(言葉)の授業が幼稚園教諭としての資質・能力に与える効果」『北海道大学紀要(教育科学編)』68(1).17-24
- 保坂 亨・中澤 潤・大野木裕明 (編) (2000) 『心理学マニュアル面接法』北大路書房 136-145
- 井上範子(2010)「研究授業『保育内容一言葉』の実践報告」『高松短期大学研究紀要』54-55号 351-375
- 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
- 大谷 尚(2007)「4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学』54(2) 27-44
- 大谷 尚(2011)「SCAT : Step for Coding and Theorization—明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法」『感性工学』10(3) 155-160
- 鈴木貴史(2016) 「保育者の絵本選択における言語表現重視の傾向とその課題—保育者用瀬家庭における絵本ビブリオバトルの実践から—」『帝京科学大学紀要』12. 147-153
- 鳥居美佳子・古屋祥子・山田千明・鳥居美佳子・古屋祥子・山田千明 (2017)「食育カルタ制作：保育内容複数領域の科目間連携授業の試み」『山梨県立大学人間福祉学部紀要』12. 68-82

常深浩平(2017)「保育内容指導法（言葉）と実習の関係についての一考察：身体化認知の視点から」『いわき短期大学研究紀要』50. 129-133

「保育内容指導法 言葉」における学生の学び

付表 SCAT 分析表

	番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の注 目すべき語句	<2>テキスト中の語 句の言いかえ	<3>左を説明するよ うなテキスト外の 概念	<4>テーマ・構成概 念 (前後や全体の文 脈を考慮して)
	1	15	2 指導案は書いていない。絵本は。	指導案は書いていない	指導案は求められない	実践重視	実践重視
	2	20	4 前日とかに、自分から行ったりとか。こっちから、読んでいいですかって訊いたこともある。	こっちから、読んでいいですかって訊いたこともある	こちらから機会をもらう	実践の機会を自ら増やす	実践の機会を自ら増やす
	3	21	2 こんだけ持ってきました、みたいな。やらせてくださいみたいな。	やらせてください	こちらから機会をもらう	実践の機会を自ら増やす	実践の機会を自ら増やす
	4	26	4 私、なんか、声小さいって言われた。一番最初に、	声小さい	声の小ささの指摘	読み方のアドバイス	読み方についてのアドバイス
	5	28	4 そうかな。一年のとき。そういうつもりなかったのに。でも、次の時に行ったE保育園では、園長先生に、安定した声でいいわね、いいと思うって言われて、何がいいのか分からなかった(笑)	何がいいのか分からなかった	善し悪しがわからない	実践で判断基準を身につける	判断基準の獲得
	6	32	1 絵本は、毎日読んでたけど、特に何も言われなかったなあ。	特になにも言われなかった	アドバイス特に無し	自分で学ぶ、実践で学ぶことの重視	読み方についてのアドバイスなし、自力で学ぶ
	7	34	1 あ、これだ。絵本の持ち方。絵本が倒れてないねって言われた。	絵本が倒れてない	見やすい角度	実践的助言	読み方についてのアドバイス
	8	36	1 こうやって読むで実習生さんがいるけど、こうやって立てて、こうやって読むといいよって。「よかったです」という方で言われた。	立てて、こうやって読むといいよって	見やすい角度	実践的助言	読み方についてのアドバイス
	9	40	2 読む前に、確認してから読んだ。	確認してから読んだ	実践的助言を求める	視点の切り替え	子どもの視点の獲得
	10	42	2 先生に、この本どうですか。この本好きだよ、って言われた本は、やっぱり受けが良かったし、この本初めてっていう本がって、それは、やっぱりちょっと、初めてだから、楽しむっていうより、一生懸命見て。1歳児。	この本好きだよっていわれた本はウケが良かった	子どもの好みの把握	実態に根付いた保育行為選択	子どもの視点の獲得
	11	44	2 知っているとすごく盛り上がる。だからこそ、読み方をもうちょっと盛り上げてたほうが良かったね。って。初めてだから。もって顔とかも使って、って言われました。	はじめてだからもって顔とかも使って	子どもの様子に配慮	実態に根付いた保育行為選択	子どもの視点の獲得
	12	47	4 (先生が、自分が言われたことについてそうしてるなーって見たことある？の問いに、) そうでもない。	(先生が、自分が言われたことについてそうしてるなーって見たことある？の問いに、) そうでもない。	保育者から学ぶものを得られない	実体験から学ぶことの要求	実践を増やすと見て学ぶ機会が減る
	13	48	2 でも、子ども見ながら絵本読んでるなっていうのはあります。	子ども見ながら絵本読んでるな	保育者から学んだもの 子どもの姿に配慮した保育士の援助	見て学ぶ 子どもの姿に合わせた保育	保育士の姿からの学び、子どもをよく見ている
	14	50	2 「しろくまのパンツ」が、どの年齢にも受けました。パンツ脱がすやつ。楽しみ方は違うと思うんですけど、1歳児でも盛り上がってました。お残りで、3、4、5歳児の時に、何が面白いかって思って、それを試しに読んで見たら、どの年齢も、盛り上がってたから、よかったです。	どの年齢にも受けました、楽しみかたは違う	実体験から学ぶ 発達段階の違い	子どもが受け入れる、楽しむ絵本について実践の中で学んだ	子ども視点の獲得
	15	52	2 (絵本選び) 難しい。	(絵本選び) 難しい。	判断基準がない	自分の中で照らし合わせるものがない	絵本選びの難しさ
	16	53	1 めっちゃ「何歳児向け」っていうのを引っ張り出してきて。	「何歳児向け」っていうのを引っ張り出してきて。	判断基準を外に求める	既成の判断基準を用いる	既成の基準の活用
	17	54	3 先生が紹介したのをやった。「きょうだいなきよだいな」とか。リズム版つけた時にやってみたら、先生も初めて聞いて、なんて本？で聞かれたことあった。	先生が紹介したのをやった	授業での学びそのまま使う	授業での学びの活用、授業の学びの有用性の認知	授業での学びの有用性実感
	18	55	1 M先生は読み方がうまいんだよね、あの、笑ってるような。	M先生は読み方がうまい	読み方のうまさ	見ている子どもへの意識、配慮、理想とする姿の形成	理想とする姿の形成
	19	58	1 読み終わった後に、ちゃんと絵を見せる時間があった。	読み終わった後に、ちゃんと絵を見せる時間があった。	絵を見せる時間	子どもとの絵本の楽しみの共有、理想とする姿の形成	理想とする姿の形成
	20	59	2 顔とか。こっち見て、顔いて、こっち見て、顔いて。	こっち見て、顔いて。	顔き、見るものの納得を促す	子どもとの絵本の楽しみの共有、理想とする姿の形成	理想とする姿の形成

21	61	1	めくり方が上手、慣れですって。	めくり方が上手	めくり方のうまさ	見ている子どもへの配慮、理想とする姿の形成	理想とする姿の形成
22	64	3	絵本の後に、ことばの授業の前までは、一年生の時までは、読み終わりました、「あ、終わりました」みたいな。だったけど、ことばの時に、引き継ぎを書いてねって言われて、あ、こうやってやればいいのか、って。次は先生のなんとかがよって。	引き継ぎをこうやれば良いのかって	引き継ぎ方の重要性への気づき	活動の流れへの気配りについての気づき、その余裕	引き継ぎ方の重要性への気づき
23	65	2	先生に、「あ、終わりました〜」（お辞儀）ってやってた。一番最初の練習はね。	先生に、「あ、終わりました〜」（お辞儀）ってやってた。一番最初の練習は	はじめの実習の振り返り、最初の実習では出来ていなかった	自己の成長の実感、より良いやり方への気づき	自己の成長の実感、より良いやり方への気づき
24	66	3	そう、終わった・・・始まる前と終わった後の引き継ぎ方はこれで教えてもらった。	始まる前と終わった後の引き継ぎ方はこれで教えてもらった。	授業での学びの活用	授業での学びの活用、授業の有用性の認知	授業での学びの有用性実感
25	67	1	絵本の導入って難しくない？手遊びを、手遊びしますよって始めるのも変だし、いきなり始めたところで子どもが乗ってくるかもわからないし、	絵本の導入って難しくない？	導入の難しさの自覚	導入の意義がわからない、授業での学びへの疑念	実践を通しての振り返り、授業での学びへの批判的検証
26	68	2	手遊びやれば良いってものでもないし	手遊びやれば良いってものでもない	手遊びへの疑問	教えられた内容への疑問、実践を通して生まれた疑問	実践を通しての振り返り、授業での学びへの批判的検証
27	69	1	絵本の導入はどうするべき？	絵本の導入はどうするべき？	導入の難しさの自覚	学びへの疑念、問い掛け、実践を通じて生まれた問い掛け	実践を通しての振り返り、授業での学びへの批判的検証
28	70	4	それは思うわ何やってたんだろ。	私なにやってたんだろ	手遊びへの疑問	自らの学びの振り返り	実践を通しての振り返り、授業での学びへの批判的検証
29	72	2	一年生の時は手遊びしかなかった。	一年生の時は手遊びしかなかった。	手遊びへの疑問	自らの学びの振り返り、成長の手応え	実践を通しての振り返り、成長の手応え
30	73	1	私は手遊びやってなかった。今日はこれ持ってきたよ、みたいな。表紙見せて、これがのってるけど何が出てくるかな、みたいな感じで読んで。おぼけ電車をガッガスの声で読んだ。子どもが怖がってた。ちょっと申し訳なかった。	私は手遊びはやってなかった。表紙見せて。	手遊び以外のやり方の模索	自分なりのやり方の模索	自分なりのやり方の模索
31	74	2	演出だよね(笑)	演出	演出の重要性	読み聞かせに重要なものへの気づき	読み聞かせに重要なものへの気づき
32	75	1	演出。雪女の声とかめっちゃうまかった。	演出	演出の重要性	読み聞かせに重要なものへの気づき	読み聞かせに重要なものへの気づき
33	76	y	同じテーマ・・・だから、おぼけの本ならおぼけの手遊び、ってすごく思ってるから、読みたい絵本があるのに、会う手遊びがないから読めないとかいいだして。	同じテーマの手遊びっておもってるから読みたい絵本があるのに合う手遊びが無いから読めない	手遊び限定の考え方への疑問	実践を通じた見方や考え方の広がり	実践を通じた見方や考え方の広がり
34	77	1	何でもいいのね。	なんでもいい	手遊び限定の考え方への疑問	実践を通じた見方や考え方の広がり	実践を通じた見方や考え方の広がり
35	78	2	言っていました。今年の1年生が。絵本と合う手遊びを一生懸命考えたのに、絵本じゃなくて、違うこととして欲しいみたいなこと言われて、それで、せっかく考えたのに〜ってことを言ってる。あと、合う手遊びがないから作ったって言ってる子もいた。	絵本と合う手遊びを一生懸命考えた	手遊び限定の考え方への疑問	実践を通じた見方や考え方の広がり	成長の手応え、メタ視点の獲得
36	80	2	すごい手遊びに執着するなーと思いました。	手遊びに執着する	手遊びへの執着の気づき	実践を通じた見方や考え方の広がり	成長の手応え、メタ視点の獲得
37	82	3	お話の歌ってあることない？	お話の歌ってある	お話の歌を使う園がある	実習での学び、気づき、新たなやり方の発見	実践を通じた見方や考え方の広がり
38	83	2	園によっては、お話の前にこれ歌うとか決まりがあるから。	園によってはお話の前にこれ歌うとか決まりがある	お話の歌を使う園がある	実習での学び、気づき、新たなやり方の発見	実践を通じた見方や考え方の広がり
39	89	1	園にそれがあるといいよね。園にあるとね。	園にそれがあるといい	お話の歌の肯定	決められたやり方に対する安心感、肯定、思考停止	決まっていると楽しい
40	94	4	先生にやり方を聞いたら教えてくれたんだけど、全然覚えられなくて。だからやめた。	覚えられなくてやめた。	お話の歌の否定	決められたやり方に対する難しさ、実習生としての限界	固定化したやり方への疑念

「保育内容指導法 言葉」における学生の学び

41	95	1	E保育園。お話でてこい先生の手から〜で、ハイドロンパってなったら、子どもはこうして（聞く姿勢）してて。	ドロロンパってなったら、子どもはこうして（聞く姿勢）してて。	お話の歌に対する子どもの反応	決められたやり方には子どもも決められた反応をとる	決まったやり方への子供の固定的反応
42	97	1	終わった後はね、絵本の話してた。絵本の話をしてたね。後何やってたかな	終わった後はね、絵本の話してた。	絵本を読み終わった後の展開、絵本の振り返り	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り
43	98	2	クイズやってた園とか。	クイズやってた園とか。	絵本を読み終わった後の展開、クイズで振り返る	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り
44	99	4	クイズもあったかも。	クイズもあった	絵本を読み終わった後の展開、クイズで振り返る	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り
45	100	2	なんか、長いお話を読んで、読む前に、クイズ出すから一生懸命見ててねって。振り返りみたいなの。	読む前に、クイズ出すから一生懸命見ててねって。振り返りみたいなの。	絵本の展開、読む前から気持ちを向けておく	絵本に子どもの気持ちを向ける為の工夫	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り
46	102	4	導入がクイズだった。	導入がクイズだった。	導入としてのクイズ	導入の展開の可能性保広がり	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り
47	103	1	絵本の内容のクイズ。ピノキオだったかな。履いてた靴の色は、とか、お皿の色は、とか。マニアックな。すぐ答える。絵を見る。	すぐ答える。絵を見る。	絵本を読み終わった後の展開、クイズで振り返る	新たなやり方を深める	絵本の読み聞かせの展開、実践を通しての学びの振り返り
48	106	2	H2園すごくよかった。園が違うとやっぱ違う。同じ絵本でも。	園が違うとやっぱ違う。同じ絵本でも。	園のやり方の良さへの気づき。園ごとのやり方の違いへの言及	さまざまな実践のあり方に触れる	展開の多様性、園によるやり方の違い
49	107	1	振り返りのない園もあった。	振り返りのない園もあった。	園のやり方の良さへの気づき。園ごとのやり方の違いへの言及	さまざまな実践のあり方に触れる	展開の多様性、園によるやり方の違い
50	108	3	十二支の絵本、年末に、教えたの的ながあると、ちょっと振り返ったり。	教えたの的ながあると、ちょっと振り返ったり。	目的の違いによる展開の違い	ねらいによっては展開が異なることの学び	ねらいに沿った展開
51	110	3	勤労感謝の日とかあると、お仕事の紹介で、なんか、今度休み日は働いてる人に感謝する日なんだよって。	勤労感謝の日とかあると、お仕事の紹介	目的の違いによる展開の違い	ねらいによっては展開が異なることの学び	ねらいに沿った展開
52	111	1	サンタさんの絵本で、100人出てくるサンタさんがいて、本当に、絵本を100人数えてんの。でも、最終的に数が合わなくて、最後の方ごまかしててた(笑)こうやって数えてるんだけど99くらいになっちゃって、99,100は同じの指差して「あ、ごまかした」って。でもそのページにいる時間がすごく長かった。数を数えるっていうねらいだと思う。	数を数えるっていうねらいだと思う。	目的の違いによる展開の違い	ねらいによっては展開が異なることの学び	ねらいに沿った展開
53	115	1	(見た本は後で置いとく?の問いに) 置いてた。	置いてた	読み終わった後の配慮。絵本を子ども手に取れるようにしておく	長期的視点に立った展開への気づき	長期的視点に立った展開
54	116	4	黒板とかに	黒板とかに(置いてた)	読み終わった後の配慮。絵本を子ども手に取れるようにしておく	長期的視点に立った展開への気づき	長期的視点に立った展開
55	117	1	置いてたから見ていいよみたいなの。	置いてたから見ていいよ	読み終わった後の配慮。絵本を子ども手に取れるようにしておく	長期的視点に立った展開への気づき	長期的視点に立った展開
56	119	4	ああ、言うかも。言ってるところある(絵本を読み終わった後のお礼)	(お礼)行ってるところある	絵本を読み終わった後の展開、絵本の振り返り	さまざまな実践のあり方に触れる	展開の多様性、園によるやり方の違い
57	120	2	「おしまい」って言ったら	「おしまい」って行ったら	絵本を読み終わった後の展開、絵本の振り返り	さまざまな実践のあり方に触れる	展開の多様性、園によるやり方の違い
58	121	13	「ありがとうございました」「また読んでください」	「ありがとうございました」「また読んでください」	絵本を読み終わった後の展開、絵本の振り返り	さまざまな実践のあり方に触れる	展開の多様性、園によるやり方の違い
59	122	1	って終わる(笑)怖いよね、あれって	怖いよね	揃ってその反応を子どもが返す事への違和感	教育的効果への疑念	固定化したやり方への疑念

60	123	4	おしまいって言わないと、終われなくて、私、一回。なんか、おしまいっていうか、なんか普通に、おしまいじゃなくて、なんかおしまいたい言葉言って、自分の中では終わって、「こうだったね」みたいな感じだったんだけど、子ども達は「え？」みたいな感じだったからあとで先生に聞いたら「おしまいって言ってね」って言われてそういう感じなんだな・・・と。「始まり始まり」っていうところもあって。なんとかなんとか、って題名言って、始まり始まりって言わないと始まらない。	おしまいって言わないと終われない	柔軟性がなくなった状態の子どもへの違和感	教育的効果への疑念	固定化したやり方への疑念
61	124	1	紙芝居っぼくない？その始まり方、紙芝居っぼい気がする。紙芝居読んだ？	その始まり方、紙芝居っぼい	児童文化財の特徴による展開のちがいに適したやり方への言及	教材の特徴を生かした展開への配慮	固定化したやり方への疑念
62	171	2	現場でいっぱい読んだ方がいいと思う。	現場でいっぱい読んだ方がいい	実践を通した学びの価値を認める	実際にやってみることで身につく実感を持っている	実習での学びの有用性の実感
63	173	1	これ（指導案）通りには絶対行かない。絶対行かないから、頭の中で、もう、こう言うことがあるってなんとなくわかるから、本読んでる時に、こう言う行動をする子もいればこう言う行動をする子もいるなって言うのがわかった上で書いてるからアレだけど、一番最初に書いたらもう、何が何だかわからないよね。	一番最初に書いたら、何が何だかわからない	実習経験なしに指導案を書いた時全くわからず書けなかった	今は実習を経て分かってくる実感	実習での学びの有用性の実感
64	175	1	だって絵本なんて、読んだことないじゃん。子どもに。わかんないよね	絵本なんて子供に読んだことない	絵本は特にわかりづらい、書きづらい	絵本を読む事で起こる子どもの反応などが予想できない	実習での学びの有用性の実感
65	176	2	ゲームとかだったらね、ルールとかさ。怪我のこととか色々出てくるけど、絵本・・・	ゲームだったらルールとか怪我のこととか出てくるけど、絵本（はない）	絵本は特にわかりづらい、書きづらい	絵本を読む事で起こる子どもの反応などが予想できない	実習での学びの有用性の実感
66	177	1	だって、絵本読みながら泣き出すなんて思わないじゃん。「なんで泣いてるの？」って（笑）「なにになくんなが邪魔で見えない」みたいな。あるんだけど、そんなん知らんじゃん。最初。なんか泣いちゃったどうしよう、みたいな。	絵本読みながら泣き出すなんて思わない最初。	実習経験がないと子どもの反応がわからない	絵本を読む事で起こる子どもの反応などが予想できない。実習を経てわかるようになる	実習での学びの有用性の実感、成長の手応え
67	179	1	だから、ごめんねって言って絵本を上あげたり。そんなんも、かけないから、最初は。	最初は書けない	実習経験がないと子どもの反応がわからない	絵本を読む事で起こる子どもの反応などが予想できない。実習を経てわかるようになる	実習での学びの有用性の実感、成長の手応え
68	181	1	（実習で保育者の読み聞かせを見て学んだかという問いに対して）私が今まで見た中で絵本見て上手だったのは、（短大の）M先生だもんな。	（実習で保育者の読み聞かせを見て学んだかという問いに対して）私が今まで見た中で絵本見て上手だったのは、（短大の）M先生	実習先より短大での学びがあったという振り返り	現場だけでなく、授業での学びにも意義を見出す	授業での学びの有用性の実感
69	182	4	それはわかる。先生が読んで、こう、立てるじゃないですか。自分が読むためにこうして。私がいった園の先生が。こう（自分の方に向けて読む）して、こっちの子見えてるのかなと思いつつ見てた時もあったから。	私がいった園の先生が。こう（自分の方に向けて読む）して、こっちの子見えてるのかなと思いつつ見てた時もあった。	実習先より短大での学びがあったという振り返り	現場だけでなく、授業での学びにも意義を見出す	授業での学びの有用性の実感
70	183	2	なんか、作業っぼいものもある。空いた時間を埋めるために絵本。だから淡々と・・・淡々と読むのがいいのかもしれないけど、ビュンビュンビュンと。	なんか、作業っぼいものもある。空いた時間を埋めるために絵本。	現場での絵本の用いられ方。大人の都合を感じた事例	教育的な意図以外の絵本の用いられ方	現場ならではの現実への気づき
71	197	4	うん・・・なんか、仕掛け絵本だと、もっと子どもと関わっていいよって言われて、最初、パパッと読んではいないけど、普通に、こういう風に喋って、読んで、みたいな感じで、やってたんだけど、先生に、もっと深く掘り下げていいよって言われて、絵本の内容について。	先生に、もっと深く掘り下げていいよって言われて、絵本の内容について。	絵本の読み方についての指導。絵本の内容について掘り下げることの重要性の示唆	子どもとの絵本の楽しみの共有、理想とする姿の形成	理想とする姿の形成
72	201	2	読み方、すごい読むスピードは早かったんですけど、怖いシーンはすごく怖く感じるし、面白いところは面白い、みたいな、読み方が上手な人はいました。声のトーン？と、調子、スピードっていうか・・・。すごく上手だった人はいました。大きさとか。	声のトーン？と、調子、スピード。大きさとか	読み方の工夫、実習先の先生の読み聞かせを観察しての学び	子どもとの絵本の楽しみの共有、理想とする姿の形成	理想とする姿の形成

「保育内容指導法 言葉」における学生の学び

73	203	2	絵本は淡々とって言いませんか？	絵本は淡々と	絵本は淡々と読むの がいいと習った	授業で学んだ基本の形	授業で学んだ理論
74	204	4	紙芝居がオーバーって言うふうだね。って聞いたことある。	紙芝居がオーバー	紙芝居はオーバーに演じるようにと習った	授業で学んだ基本の形	授業で学んだ理論
75	213	1	演じたくない？声のトーンだけは変えたくない？さっき行った、怖い時は怖くとか、ゆっくり読むところはゆっくり読むとかしない、自分が読んだ気にならない。こんな読み方して、子どもはちゃんと見てののか？って、子ども見るもん読みながら。どこ読んだかわからなくなる。こっちみすぎで、あ、どこの文だっけって。よくある。	怖い時は怖くとか、ゆっくり読むところはゆっくり読むとかしない、自分が読んだ気にならない。	習ったやり方に反し、演じたほうが読んだ気になれる	実践で感じたより良いやり方、得られた実感が習ったやり方と違う	授業での学びと実感とのズレ
76	220	1	でも、だいたい、うちらが読むから、先生の読んでる姿をあんまり私は見てこなかった。うちらが読んでるから。いつも自分（保育者）が読んでる時間を、私たちに時間をくれるから、先生たちが読んでるのをあんまり見てこなかった。一番最後に行ったことは、延長保育の時に先生がいつも読んでたからそれを見てたけど、ほかはね、あんまりね、見てなかった。読む方ばかり。だったと思う。	うちらが読むから、先生の読んでる姿をあんまり私は見てこなかった	実習の矛盾の一つ、実習生が実践するとその分保育者の保育を見ることのできない、見て学ぶ機会が減る	実践が多いと観察での学びが不十分になる、自習ならではの矛盾	実践を増やすと見て学ぶ機会が減る
77	221	3	なんか、乳児とかは、普通にその場の時間を保つために読んでる時であれば、絵本を読んだ後にトイレに行く、切り替えを促すために、鶏のひよこの話、絵本の中で、最後にひよこがいっぱい出てきて、子どもを、じゃあ今からトイレに行くよ、なんとかひよこ、はい！って。絡めてた時もあつたけど、そんなやり方もあるんだって。	乳児とかは、普通にその場の時間を保つために読んでる時であれば、絵本を読んだ後にトイレに行く、切り替えを促すために、絡めてた時もあつた	保育者の技、読んだばかりの絵本の内容を絡めて次の子どもの行動を促す	保育者の技術、子どもの様子から興味の方角性を見てとりつけて行く技	子どもの興味と生活を即興的につなげる保育士の技
78	229	3	私、この、絵本じゃないけど、「おばあさん家の謎」やったんですよ。ネズミの、切ってくやつ。お面になる。最初、何の話だろ？みたいで、乗ってくれたんですけど、私がわかりやすくネズミのカラーにして耳も作りました。だからちょっとネタバレしちゃって、ネズミだよ！ってなっちゃったけど、こうやって、（保育内容ことばの）授業始まる前にこういうのやってもらえたのが・・・（よかった）	（保育内容ことばの）授業始まる前にこういうのやってもらえたのが・・・	手遊び以外の小さい遊びを授業で学べたことへの評価	手遊び以外の学びの評価	手遊び以外の学びの評価
79	231	2	（手遊び以外の小さな遊びを、保育内容ことば以外の他の授業では）やらない。手遊びしかやらないよね。だから新鮮だった	（手遊び以外の小さな遊びを、保育内容ことば以外の他の授業では）やらない。手遊びしかやらないよね。だから新鮮だった	授業では手遊びに偏っている、手遊び以外は新鮮	手遊び偏重への気づき	手遊び偏重への気づき
80	233	4	最初のアレが手遊びだったから、余計手遊び・・・でなくて。U先生の授業でも、それこそグループに分かれて手遊びすい調べて、何回もやって。	最初のアレが手遊びだったから、余計手遊び・・・でなくて	最初に授業で習うのが手遊びばかり	手遊び偏重への気づき	手遊び偏重への気づき
81	235	2	これじゃない？初めて手遊び以外の導入・・・	これじゃない？初めて手遊び以外の導入・・・	手遊び以外の導入の紹介は言葉の授業がほぼ初めて	手遊び偏重への気づき	手遊び偏重への気づき
82	237	4	その、S先生も、たまになんか手遊びしてたけど、結局全部手遊びだよ。	結局全部手遊び	授業では手遊びに偏っている	手遊び偏重への気づき	手遊び偏重への気づき
83	240	1	「ビコロミニ」！ずっと歌ってた(笑)	「ビコロミニ」！ずっと歌ってた(笑)	手遊び以外に、言葉遊びも授業で学んだ	手遊び偏重への気づき	手遊び偏重への気づき
84	241	y	あと、クイズとか。言葉遊びみたいなね。	あと、クイズとか。言葉遊びみたいなね。	手遊び以外に、言葉遊び、クイズも授業で学んだ	手遊び偏重への気づき	手遊び偏重への気づき
85	243	2	（言葉の授業での素話について）やった。それもやりたかった。実習で。やれなかった。	それもやりたかった。実習で。	授業での学びを実習で活かしたい思い	授業での学びを実践に生かす意識	授業での学びを実践に生かす意識
86	245	3	素話やってくださいという園もあった、でも、本当の素話じゃなくて、ペーパーサート使っていて、って、遊びの導入としてだったから、これ助かりました。	遊びの導入としてだったから、これ助かりました	実習で授業での学びが生かされた経験	授業での学びを実践に生かす意識	授業での学びを実践に生かす意識
87	247	4	そういう授業（絵本以外について学べる授業）が欲しかったかもしれない。	そういう授業が欲しかった	絵本以外に学べる授業が欲しかった	絵本以外の言語文化財を学ぶ機会の少なさ	絵本以外の言語文化財を学ぶ機会の少なさ
88	248	2	絵本にとらわれすぎ。	絵本にとらわれすぎ。	絵本偏重	絵本以外の言語文化財を学ぶ機会の少なさ	絵本以外の言語文化財を学ぶ機会の少なさ

89	249	4	絵本と手遊びがセット、っていう。とらわれちゃう、その環境、みたいな。	絵本と手遊びがセット	絵本と手遊びを中心とした授業が多いために、固定観念になっている	絵本と手遊びという固定観念	授業内容が作る固定観念
90	250	2	別に空いた時間に好きなことして、って言われて、一年生の時は、まあ絵本でしよって感じだったけど。「絵本以外、何？」って感じだったけど。この授業とか、2年生になったり、実習するにつれて、広がった。え、なんで絵本だったんだろ？って。他のももっとやりたかった！って。	この授業とか、2年生になったり、実習するにつれて、広がった。	絵本と手遊びがセットという考え方があったが、保育内容ことばの授業や実習を経て考えが広がった	絵本と手遊びという固定観念	授業内容が作る固定観念
91	251	4	私も、一番最初の実習の時に、先生が、3歳児だったんですけど、お便り帳とか見てる時間が空いちやうから、一人担任だして言われて、そのところで、手遊びとかやっていたよって言われて。10分、15分とか・・・目によって。その時に、手遊びとかいっぱいやっていいよって言われて、手遊びいっぱいやっていいよって言われたから、あ、手遊びしかない・・・って。自分の中で。そういうのも、こういう、学校でも、手遊びしかわかんなかったから、手遊びやって・・・なんか・・・どうしよう・・・みたいな。詰まっちゃって、わからなくなっちゃって。後悔してるよね。すごく。でもなんか、一応、グローブシアターとかも持ってたら、そこでやっていいよって言われて、そこでやらせてもらったんですけど。	手遊びしかない・・・って。自分の中で。学校でも、手遊びしかわかんなかったから、後悔してる	授業では手遊びが種だったため、実習で機会を与えられても手遊びばかりやっていたのを後悔している	絵本と手遊びという固定観念	授業内容が作る固定観念
92	252	2	絵本以外の何か持ってるって強いよね。パペットとか作ったよね。100均の靴下で作りました。	絵本以外の何か持ってるって強い	絵本以外のできることを増やそうとパペットを作った	自分の弱みを意識して補完	自分の弱みを意識して自分で補完
93	281	2	読み聞かせの、あったじゃん。これ（絵本の読み聞かせグループ単位の模擬保育）良かった。	これ（絵本の読み聞かせグループ単位の模擬保育）良かった。	授業で読み聞かせの模擬保育をやったよ良かった。	実習前に、擬似的にやっておくことの良さ	実習に向けて模擬保育の意義の再確認
94	283	3	これをいろんなパターンでやってもえらると・・・	これをいろんなパターンでやってもえらると・・・	いろんなパターンでやっておくことの良さ	実習前に、擬似的にやっておくことの良さ	実習に向けて模擬保育の意義の再確認
95	284	4	もっと、全員の前とかでもやれたら。時間は難しいけど。	もっと、全員の前とかでもやれたら。	グループでなく、全員の前でやるなど、他のやり方も提案	実習前に、擬似的にやっておくことの良さ	実習に向けて模擬保育の意義の再確認
96	285	1	こういうのって同じクラスの子とやったから、褒めちぎられるわけですよ。悪いことが書かれなから	同じクラスの子とやったから、褒めちぎられる	知人との意見交換はいいことしか書いてもらえないという不満	模擬保育をより生かすためのコメント、できていないことへの指摘の重要性	できていないことを指摘してほしい
97	290	2	しかも、実習頑張れ、みたいな感じで。だからこの、言葉は純粋に嬉しかったけど、技術とか色々のこと考えると、もうちょっと欲しいなっていう。	技術とか色々のこと考えると、もうちょっと欲しい	実習直前の励ましのコメントも嬉しいが、技術的な改善点などをもっと欲しい	模擬保育をより生かすためのコメント、できていないことへの指摘の重要性	できていないことを指摘してほしい
98	312	1	客観的に見て、ああ、これあれだなと思って、絶対自分でやってもこれやるもん、指摘できん。私がこれを完璧にできないから指摘ができません	私がこれを完璧にできないから指摘ができません	模擬保育で客観的な改善点も、自分自身もできないのと言えない	自分もできていないことの指摘は気がひける	できていないことの指摘は難しい
99	315	2	だから、自分が気にしてる、こういうところできない、苦手だな。って	自分が気にしてる、	自分が気にしていることだからこそできないのでは。発想の転換。	できないからこそ気づける	できていないことの指摘は難しい
100	316	1	そういうことではないのかな・・・見てて・・・そこに立ってたら、子ども全体が見られるのか、とか。その喋り方で、その説明の仕方子どもに伝わるのか？って考えて、でもそれが自分ができてるか微妙だから言えない	自分ができてるか微妙だから言えない	自分もできていないと言いつらいという気持	自分もできていないことの指摘は気がひける	できていないことの指摘は難しい
101	317	2	だから、「気にしてるからこそ気づく」なんじゃないの。だから、言っていないんじゃないの	「気にしてるからこそ気づく」だから、言っていないんじゃないの	自身ができなくても気づいたことは言い合えると良いという考え	できないからこそ気づける	できていないことの指摘は難しい
102	319	3	「君のおかげで気づけたよ」みたいな(笑)	「君のおかげで気づけたよ」	他者の行動を見ることで自身を振り返ることもできる、模擬保育を見あう利点の一つ	できないからこそ気づけるということを大切に、お互い、指摘するべき	自分もできていないからこそ指摘し合う

要旨

A Study of Childcare Contents Instruction Method “Language” :
A Focus on Connection with Experience in Practical Training

Satoko YAMAMOTO

本研究では、「保育内容指導法 言葉」の授業と実習での、絵本の読み聞かせを中心とした学びについての学生の振り返りを通して、学生の学びの実感の様相を明らかにし、保育者養成課程における「保育内容指導法 言葉」の授業実践の改善の手掛かりを得ることを目的として、卒業を間近に控えた2年生の学生へのグループインタビューを行い、比較的小規模のデータを明示的な手続きで理論化する手法であるSCATを用いて分析を行った。その結果、学生の振り返りから、学生らの短大での絵本の読み聞かせを中心とした「保育内容指導法 言葉」に関連した学びを構成する要素として、実習においては①実践重視、②現場ならではの現実への気づき、授業においては①授業での学びの有用性の実感、②授業での学びへの批判的検証、③模擬保育の意義の再確認の3点が浮かび上がった。

キーワード ; 「保育内容指導法 言葉」 学生の学び 実習 読み聞かせ